

## 保育方法としての「応答」のあり方について

— 『幼稚園教育要領』・『保育所保育指針』・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の観点から —

加藤 由美<sup>1)</sup>\*

1) 新見公立短期大学幼児教育学科

(2017年11月15日受理)

『幼稚園教育要領』・『保育所保育指針』・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』に明示されている子どもへの「応答」のあり方を理解できるようにするため、保育者養成短期大学1年生54名に対し、「言葉」指導法の授業においてDVD教材を用いた実践を行った。その中で学生の学びの内容を明らかにするとともに、DVD教材を用いた授業や研修の有用性について検討した。その結果、映像の視聴を通して、保育方法として重要な「発語や喃語への応答」、「応答的な触れ合いや言葉掛け」、「応答的な関わり」等に関する学生の理解が深まり、実践への意欲につながったことが窺えた。学生に限らず、子どもの保育に携わる保育者や保護者は、保育方法としての「応答」の重要性を十分に認識し、実践していくことが求められている。そのための一方法として、DVD教材を用いた研修のあり方を提案する。

(キーワード) 応答、保育方法、『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

### 1. はじめに

保育においては、子どもへの応答的な関わりが重要であるとされている。

『幼稚園教育要領』<sup>1)</sup>・『保育所保育指針』<sup>2)</sup>・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』<sup>3)</sup>(以下、「新『要領・指針』」と略記)には、保育における「応答」に関する記述が随所に見られる。筆者は、これらの「応答」に関する記述部分を抜き出し、一覧表に示した(表1)。

表1を概観したところ、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』においては、特に(満)3歳未満児の保育において、「応答的な触れ合いや言葉掛け」、「応答的な関わり」、「発声や喃語等への応答」等の記述が見られる。

新『要領・指針』において共通していたのは、「言葉」領域の「内容の取扱い」における次の内容である。以下、( )内は『保育所保育指針』・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の文言である。

「言葉は、身近な人に親しみをもって接し、自分の感情や意思などを伝え、それに相手が応答し、その言葉を聞くことを通して次第に獲得されていくものであることを考慮して、幼児(子ども・園児)が教師(保育士・保育教諭)や他の幼児(子ども・園児)と関わることにより心を動かされるような体験をし、言葉を交わす喜びを味わえるようにすること。」

このように、子どもの情緒の安定や人との信頼関係の構築、また、子どもが言葉を獲得したり、言葉を交わす喜びを味わったりする過程においては、保育者の「応答」が重要であることが分かる。

保育者養成教育においても、学生が保育者の子どもへの「応答」の重要性や、具体的な場面での子どもへの「応答」のあり方を理解することが大切である。しかし、実際の保育場面を見学したり実習したりした場合でも、教員が学生に経験させたい、学ばせたいと思う場面に学生がタイムリーに遭遇する訳ではなく、また多くの学生が同時に同じ場面を見て学ぶことも困難である。

保育において重要な「応答」のあり方に関して、学生が具体的に分かり易く学ぶための手段として、DVD教材を用いる方法がある。

例えば、大学での心理学関連科目の講義においては、映像教材の利用に対するニーズが高く、様々な講義科目で映像教材の活用がなされており、映像の視聴が人の心理・行動に対する理解の深化に貢献し、それが学生の高評価に結びついているとの報告がある<sup>4)</sup>。また、保育士養成の授業に関しては、動画教材視聴における学生の乳幼児を「見る目」の違いやその育ちに関する報告もあり、授業の中で動画を使用することにより、教科書に記された子どもの特徴に関して、より理解を深めることができると推察される<sup>5)</sup>。先行研究においては、映像教材を講義で効果的に活用するために、講義内容との関連を明確にし、使用する映像の選

\*連絡先: 加藤由美 新見公立短期大学幼児教育学科 718-8585 新見市西方1263-2

表1 『幼稚園教育要領』・『保育所保育指針』・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』における「応答」に関する記述部分の比較

『幼稚園教育要領』	『保育所保育指針』	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
p7	第1章総則 2 養護に関する基本的事項 (2)養護に関わるねらい及び内容 イ情緒の安定 (イ)内容①	p15 第1章総則 第3 幼保連携型認定こども園として特に配慮すべき事項 5(2)ア
～(略)～子ども(園児)の欲求を適切に満たしながら、 <u>応答的な触れ合いや言葉が(掛)け</u> を行うこと。		
p13	第2章 保育の内容 1 乳児保育に関わるねらい及び内容 (1)基本的事項 ア ～(略)～乳児保育は、愛情豊かに、 <u>応答的に行われる</u> ことが特に必要である。	p17 第2章 ねらい及び内容並びに配慮事項 第1 乳児期の園児の保育に関するねらい及び内容 基本的事項 ～(略)～ <u>特定の大人との応答的な関わり</u> を通じて、情緒的な絆が形成されるといった特徴がある。
p14	(2)ねらい及び内容 イ 身近な人と気持ちが通じ合う	p18 ねらい及び内容 身近な人と気持ちが通じ合う
受容的・ <u>応答的な関わり</u> の下で、何かを伝えようとする意欲や身近な大人との信頼関係を育て、人と関わる力の基礎を培う。		
p14	(イ)内容①	p18 2 内容(1)
子ども(園児)からの働きか(掛)けを踏まえた、 <u>応答的な触れ合いや言葉が(掛)け</u> によって、欲求が満たされ、安定感をもって過ごす。		
p15	(イ)内容④	p19 2 内容(4)
保育士(保育教諭)等による語りか(掛)けや歌いか(掛)け、 <u>発声や喃語等への応答</u> を通じて、言葉の理解や発語の意欲が育つ。		
p15	(ウ)内容の取扱い①	p19 3 内容の取扱い(1)
～(略)～子ども(園児)の多様な感情を受け止め、温かく受容的・ <u>応答的に関わり</u> 、一人一人に応じた適切な援助を行うようにすること。		
p16	(3)保育の実施に関わる配慮事項 イ ～(略)～ <u>特定の保育士が応答的に関わる</u> ように努めること。	
p17	2 1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容 (1)基本的事項ア	p20 第2 満1歳以上満3歳未満の園児の保育に関するねらい及び内容 基本的事項1
～(略)～保育士(保育教諭)等は、子ども(園児)の生活の安定を図りながら、自分でしようとする気持ちを尊重し、温かく見守るとともに、愛情豊かに、 <u>応答的に関わる</u> ことが必要である。		
p18	(2)ねらい及び内容 イ 人間関係 (イ)内容②	p22 ねらい及び内容 人間関係 2 内容(2)
保育士(保育教諭)等の受容的・ <u>応答的な関わり</u> の中で、欲求を適切に満たし、安定感をもって過ごす。		
p19	(ウ)内容の取扱い①	p22 3 内容の取扱い(1)
～(略)～子ども(園児)の気持ちを尊重し、温かく見守るとともに、愛情豊かに、 <u>応答的に関わり</u> 、適切な援助を行うようにすること。		
p20	エ 言葉 (イ)内容①	p23 言葉 2 内容(1)
保育士(保育教諭)等の <u>応答的な関わり</u> や話しか(掛)けにより、自ら言葉を使おうとする。		
p20	エ 言葉 (ウ)内容の取扱い①	p24 言葉 3 内容の取扱い(1)
身近な人に親しみをもって接し、自分の感情などを伝え、それに <u>相手</u> が <u>応答</u> し、その言葉を聞くことを通じて、次第に言葉が獲得されていくものであることを考慮して～(略)～		
p20	第2章 ねらい及び内容 言葉 3 内容の取扱い(1)	p31 第3 満3歳以上の園児の教育及び保育に関するねらい及び内容 言葉 3 内容の取扱い(1)
言葉は、身近な人に親しみをもって接し、自分の感情や意思などを伝え、それに <u>相手</u> が <u>応答</u> し、その言葉を聞くことを通じて次第に獲得されていくものであることを考慮して、幼児・子ども(園児)が教師・保育士(保育教諭)や他の幼児・子ども(園児)と関わることにより心を動かされるような体験をし、言葉を交わす喜びを味わえるようにすること。		

注:『幼稚園教育要領』・『保育所保育指針』・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(平成29年告示 フレーベル館)の応答に関する該当頁を、p〇で示した。また、文中の( )内は、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』における文言である。応答に関する記述部分に下線を付した。

択やその使用方法等について、事前に十分な吟味を行ったうえで利用することが必要であると指摘されている<sup>4)</sup>。

本稿では、保育者養成短期大学の学生が、保育方法としての「応答」のあり方を学ぶために実施したDVD教材を用いた授業実践について報告し、子どもへの応答的な関わりについての学生の具体的な学びの内容を明らかにするとともに、DVD教材を用いた授業や研修の有用性について検討することを目的とする。

## 2. 方法

### 教材の選定に関して

教材として用いたDVDは、①『ことばを育てる語りかけ育児』<sup>6)</sup>と②『応答的保育 第2巻 実際編』<sup>7)</sup>である(以下、DVD①、DVD②と略記)。それぞれの概要を、表2-1・表2-2に示した。

DVD①、DVD②の選定理由は、以下のとおりである。

まずDVD①については、特に(満)3歳未満児の保育において重要とされている「発語や喃語への応答」、「応答的な触れ合いや言葉掛け」、「応答的な関わり」等(表2-1)について、映像により分かり易く学べると判断した。具体的には、重要な場面をスローVTRで再現する、子どもや母親の視線を矢印で示す、大切な内容を文章で表示する等の工夫がなされており、映像に合わせた解説が分かり易いという特徴がある。

また、DVD②については、保育者による年中・年長児への「応答」の方法が、保育者と子どもの会話の映像によって、様々な技法ごとに分かり易く紹介されている(表2-2)。例えば、ことばによる応答のプロセス「過程」の1つである「示唆」の技法を紹介する次のような場面がある。

保育者：○○ちゃん、てんとう虫がいる！ペパーミントの葉っぱにてんとう虫発見！  
 保育者：なんていうてんとう虫でしょう？  
 保育者：いくつ模様があるか見てみて、ほら(示唆)  
 子ども：ななつ  
 保育者：七つってことは？(示唆)  
 子ども：ななほしてんとう

実際の保育者と子どものやりとりの内容が映像化されているため、学生同士がDVD視聴後に、ロールプレイを通して実践的に学ぶための参考になると考えた。

### 対象者・具体的な手続き

N保育者養成短期大学1年生54名に対して、「言葉」指導法(1年次前期必修・演習科目・30時間)の第3回～第6回授業において、DVD①、DVD②を用いた授業を実施した。

(実践1) DVD①の視聴を2回に分けて実施した。視聴内容について記入できるプリントをあらかじめ配布し、学生

は、各自メモを取りながら視聴を行った。視聴後には、気付き・感想等を自由に記述した。

(実践2) DVD②の視聴とロールプレイを2回に分けて実施した。まず、視聴内容について記入できるプリントをあらかじめ配布し、学生は、各自メモを取りながら視聴を行った。「発問・受容」の視聴+ロールプレイ、「過程」の視聴+ロールプレイ、という形でDVD視聴とロールプレイをセットにして実施した。ロールプレイでは、学生同士が2人組のペアを作り、視聴した内容を参考に、様々な「応答」技法を用いた保育場面のシナリオを作成してから、それぞれのペアで保育者役と子ども役になり、ロールプレイを実施した。最後に、何組かのペアを指名し、全体の場で発表する場面を設けた。実施後に、学生は気付き・感想等を自由に記述した。

学生の記述内容については、質的な分析を行い、その結果をカテゴリー別にまとめ、表に示した。

### 倫理的配慮

研究対象者には、口頭にて研究の主旨、目的、方法を伝えるとともに、研究協力は自由意志によるものとし、協力しない場合でも不利益を受けることはないこと、成績評価には一切影響しないこと、授業の成果を研究として公表することについて説明を行い、回答を記述した用紙の提出をもって同意を得たものとした。記述内容の取り扱いに関しては、個人が特定されないように十分配慮した。

## 3. 結果

DVD①を視聴した学生の気付き、感想等の主な内容を、表3に示した。

表3の各カテゴリー内の項目は、学生の感想も含んだ記述内容となっており、一人の学生が複数の観点から記述しているため、全回答数は学生数を上回っている。

記述内容として多かったカテゴリーを順に挙げると、「子どもの目線・サインに気付く」(37)、「子どもの気持ちを代弁する」(26)、「大人のあり方」(21)、「ポジティブな言葉掛け」(14)、「子どもの気持ちを汲み取る」(14)、「子どもと目を合わせる」(12)、「子どもの言葉を繰り返す・同じ声を出す」(9)、「親子関係」(9)、「今後の意欲」(9)、「適切な話し方」(4)、「その他の感想等」(33)であった。

次に、DVD②を視聴後、ロールプレイを実施した学生の気付き、感想等の主な内容を、表4に示した。

記述内容として多かったカテゴリーを順に挙げると、「今後の意欲」(43)、「応答の難しさ」(43)、「保育者の役割」(34)、「ロールプレイの感想」(22)、「気付いたこと・分かったこと」(20)、「大切だと思ったこと」(11)、「その他」(7)であった。

表2-1 DVD『ことばを育てる語りかけ育児 (65分)』の概要

目次	内容
はじめに	3つの大事なこと 1. ことばの前に“ころ”あり ことばは心と心を通い合わせる為の手段 「目が合う」「同じ視線を向ける」気持ちを伝える良い手段 子どもが伝えてくる気持ちを大人が上手に返すと気持ちの通い合いが育ちえることばにつながる 2. “安心感”がことばを育てる 子どもの気持ちを読み取って返すと“気持ちを分かってくれる”と安心感につながる 安心感があるからこそお母さんから離れて冒険でき見聞きして学べる 3. “ことば”は鏡餅のみかん ことばは脳、ころは脳辺縁系 からだは脳幹 からだ・ころを育てないと ことばは育たない
ねんねの頃	子どもの気持ちを声にして表す 首が座らない時期は首を支えると目を合わせやすい 赤ちゃんと同じ声を出す。声を出すと同じ声が返ってくることでまた声を出そうという気持ちになる 大人の方から目を合わせる(赤ちゃんとの距離は約30cm) 子どもが居心地の良い抱き方を工夫する 子どものからだを動かすことで表情が生き生きする 赤ちゃんからの働きかけが少ないので寝かしたままにする時間が多くなりやすい。1日に15分でも、姿勢や揺らし方を工夫して目を合わせる
お座りからハイハイの頃	自分とおもちゃだけで遊んでいる からだを支える為に手が自由に使えない。からだをしっかりと育てないと外に目をむけることが難しい 子どものからだを動かすことで表情が生き生きしてくる 危機に似た状況遊びの中で作ると、お母さんは子どもの表情を必ず確認する 赤ちゃんがおとなしくしていると安心して、テレビを見るなど働きかけが弱くなっている 1日15分・5分間を3セットなど時間を作り、意識的からだを使った遊びをして目を合わせる 子どもが注意を向けた時に大人が働きかけると子どもの記憶にのこりやすい。子どもが興味を持っている物について話しかけたり関わったりすることが大切
歩き始めの頃	三者の関係・三項関係(共同注意) 物を介して自分と母親の関係ができていく 単にオモチャを渡す遊びではなく自分の気持ちを受け取ってくれるか確認している。きちんと受け取ってもらった経験を積みもともと伝えたいという気持ちが育ちことばが出てくる。 人に伝えるための実用的なことばが育つ 物を渡して「ありがとう」「どうぞ」という遊びは、時間のある限り答えてあげることが重要 ことばでは言えないが動作や視線で表現している。困った時に大人がその気持ちを理解し代弁することで子どもの人格が安定して育つ 「指をさす」ことはことばと関係が深い(共同注意)。 物を介して自分と母親さらに別の人との関係がどんどん育つていけば、集団の中で人と交わっていきける 社会的参照(自分の行動が正しいかどうか大人の表情を見て確かめること) 新奇刺激(あたらしい物)を見つけたら、お母さんにすぐに伝えている。子どもが物を渡したらその度に物と気持ちを受け取ったよと返していく。大人が気持ちをきき取り受け取ると子どもはもっと伝えようと積極的になる
望ましくない関わり方	1. 興味のないことに無理やり誘う 2. 子どもの相手をしない 3. 質問せめて無理に言わせる 4. 間違いを訂正して正しく言わせる ※子どもが言うことを聞かないのは子どもの問題ではなく、大人が子どもの発信を上手に受け止めて返していないから
望ましい関わり方	基本的信頼感:お母さんを安全基地にして探索行動の範囲を少しずつ広げていく 自閉症スペクトラムの子どもは視線で大人に伝えることがなかなかできない 指さしやジェスチャーで示したり目で見て分かるようなことばかけをする(視覚的な支援) 子どもの気持ちや行動を言葉に出して話す 子どもの視線の先にあるものをみながら、子どもが何を求めているのかを読み取っていく 子どもが興味のあることについて大人が話題にすると子どもの目が輝き、前向きで積極的になる 子どもが生き生きしている、笑顔になっているなど、子どもの表情を見逃さない(子どもにとって必要な遊びかどうかの見極めのポイント)
まとめ	7つの大事なポイント・テクニック 1. ゆっくり・はっきり話す 2. 子どもの声・動きをまねる 3. 子どもの気持ち・行動を大人が代わりに言う 4. 大人が自分の気持ち・行動を口に出す 5. 動きや音を使って注目を引く 6. ジェスチャー・指さしを意図的に使う 7. ポジティブなことばがけをする ※子どものやりたいことを探り当て、一緒に遊べばことばは育つ

表2-2 DVD『応答的保育 第2巻 実際編 (40分)』の概要

目次	内容
導入	応答的保育:子どもの働きかけに対し環境から返ってくる「応答性」を重視する保育 子どもの成長にとって大切な教育環境、保育環境を応答的保育によってどのように考え、どのように作り出していくか 理論編のまとめ:応答的保育の3つの応答 物やおもちゃによる応答 ことばによる応答 心の応答 ことばによる応答 3つのプロセス 発問:上手にたずねる・上手に質問する⇒子どもの思考を刺激 受容:上手に受けとる⇒子どもの心を受け入れる 過程:上手に話す・上手に話をつなぐ⇒子どもとのコミュニケーションを広げていく
発問	1 Yes-No質問:子どもが「はい」「いいえ」で答える質問 2 Wh質問:先生が「いつ、どこで、だれが、なにを、なぜ」などをたずねる質問 発問:内容が子どもの能力や興味に応じたものであること Yes-No質問は年齢の低い子どもが答えを見つけれない場合などに効果的な発問 年齢の高い子どもの場合は、Wh質問に注意をそそぎ発問すると、子どもの考える力、思考が刺激され活性化される
受容	受容:子どものことばや行動を先生やお母さん・お父さんがことばで受け入れること 受容の例 くり返し 賞賛 確認 感情移入 承認⇒同意・肯定 制止 受容 非承認 「くり返し」の例 くり返し:子どもの言葉を単にくり返すこと 自分のことばを先生がくり返すのを聴いて「認められた」「受け入れられた」という気持ちを心に芽生えさせる 子どもがこれなに?と質問したのに対し、「これ、何だった?」と発問で子どもに考えさせ、子どもがお水さん、と答えるのを待って、「お水さんだったね」と受容している 「賞賛」の例 子どものことばや小さな行動をほめることを忘れてはいないか 「よく知っているね」など、先生にほめられることは子どもにとって保育者が想像する以上にうれしいこと。幼い子どもに、賞賛はとくに重要 「感情移入」の例 感情移入:先生のことばに子どもの誇らしい気持ちを共有し共感する感情があらわれている 応答的保育ではいつも子どもに喜びを与え自信をもたせるように「受容」することが大切
過程	過程:子どものコミュニケーションを活発にし、思考を発展させ、考える力を伸ばす対応 明瞭化=思考を定着 リード=思考を前進 解釈=思考を深化 説明=思考において解釈する力 示唆=思考を拡大 補足=思考を充実 展開=思考を発展 比較=思考の対比 発想の転換=思考の転換 命令=思考を柔軟に 「明瞭化」:子どものことばの内容がはっきりするように先生が言いおして応えること 応答的な働きかけによって子どもは自分が発したことについて実感を認識する。明確になった思考が子どもの心に根付く 「示唆」:子どもの思考を拡げ、拡大し、考える力を伸ばす 示唆:次の答えを自分で考えださなければならない状況をつくります。示唆により自分で気づくことができない考えを発見したり、行動したりする。思考の拡大がおこなわれ自分で考え行動する自発性につながる 「補足」:子どもの思考が補われ充実 「リード」:子どもの話を前進させてやると子どもの夢が広がる 過程は子どもの思考を発展させるための重要な意味をもつ 過程を使ったことばを意識し応答的に対応すると子どもの思考が発展し知的能力へとつながる
ことばの応答	豊かなことばによる応答がなされた時、充実した保育場面をつくりだすことになる 応答的保育により子どもの心情を理解できるようになると、先生は子どもの心の奥底に芽生えた感動や好奇心をくみ取ることができ(心の応答) 子どもは感動を先生と共有できたことで、喜びはさらに大きく膨らみ、まわりの大人を信頼する心を育む。先生の豊かなことばや表情とおして「心の応答」が行われると、子どもの好奇心はかきたてられ、心のなかに知的な好奇心が豊かに育つ

#### 4. 考察

##### 養成校における学生の学び

実践1においては、「子どもの目線・サインに気付く」、「子どもの気持ちを汲み取る、代弁する」、「子どもと目を合わせる」、「子どもの言葉を繰り返す」等の記述内容から、学生達は、実際の映像を見たり、その解説を聞いたことにより、これらの事がなぜ大切なのかを実感として理解できたことが窺えた。

「子どもの目線・サインに気付く」(表3)では、「子どもが興味のある時と興味のない時の表情が結構違ってびっくりした」、「子どもの気持ちは表情に出ることが分かった」、「子どもの目線の先にあるものを読み取ってあげると子どもは生き生きしていた」、「どういうことが子どもの目線なのかを理解できた」等の記述や「子どもの一つ一つの行動にはちゃんと意味があるんだと思った」、「実際の子どもの映像があったので、とても分かりやすかった」といった感想から、実際の映像を見るのが学生の子ども理解につながっていると考えられた。

「大人のあり方」では、大人(保育者)が、自分の思いを子どもに押し付けるのではなく、子どものしたい事を優先する、子どもに合わせる事が大切であり、「大人の何気ない行動が良くも悪くも子どもの人生に大きく影響する」、「大人が大人にならないといけない。子どものような大人だと子どものことが不快になり、虐待につながってしまう」と記述した学生もいた。「子どもの相手をする事は大事なので、スマホの使用の仕方について考えるべき」といった、いわゆる「スマホ育児」を懸念する意見もあった。学生が、大人(保育者)として子どもにどのように接するべきかを考える機会になったことが窺えた。

また「ポジティブな言葉かけ」については、まとめの最後でわずかに紹介されただけではあるが、学生達には、例示された言葉(「お手々洗わないと、おやつあげないよ」ではなく「お手々洗ったらおやつにしようね」)が印象に残っていたことが窺えた。「言い方を変えるだけで言われる方(子ども)の気持ちも全く違う」(表3)のように、子どもの気持ちを尊重した言葉かけの大切さについて学生が理解できたと考えられた。

実践2においては、ことばによる応答の3つのプロセス(発問・受容・過程)に関する専門的な内容(表2-2)を学んだことで、学生自身が子どもとの会話の中で活かしていきたいという今後の意欲を述べた内容とともに、応答的保育(特に「過程」の内容)を実践する難しさについての記述が多く見られた。そして、保育者の役割について「何気ない会話でも、子どもの力を伸ばせるように、うまく子どもの話を引き出すように工夫」、「子どもの言葉を引き出すために様々な方法を使っている」、「先生が正解を言うてしまうのではなく子どもに考えさせることが大事」、「子

どもが自分で思いを伝えられるように質問の仕方を工夫」、「会話の中にことばを育てる要素をたくさん入れている」等と記述していた。保育者の役割については34の記述が見られたが、その内の19は映像のような実践を行う保育者に対して「すごい」という感想を記述していた(表4)。中には、「先生たちは、流石に練習とかして慣れているんですか?それとも年々やって来たからできるんですか?」との質問を投げかけた学生や「自分もそういった保育者になれるか不安」と述べた学生もいた(表4)。そのため、授業においては、現場の保育者自身も応答的保育について学んでいる事例を紹介し、今後、DVDで学んだことを意識しながら実践していくことが大切であると伝えた。

##### 保育現場において

実践1のDVD①の内容(表2-1)には、「発語や喃語への応答」、「応答的な触れ合いや言葉掛け」、「応答的な関わり」等、育児において心掛けるべき大切な内容が多く含まれている。映像には、実際の親子が何組も登場しており、親(大人・保育者)としてどのように子どもに向き合い、どのような言葉掛けをすればよいかを示されているため、学生だけでなく、特に乳幼児期の子どもをもつ保護者や3歳未満児を担当する保育者にとっても参考になる部分が多い。

保育者が子どもの気持ちを尊重し、子ども自身が「大切にされる体験」を積み重ねることが、大人や社会への信頼感を育むことにつながる。しかし、保育者が日頃子ども達に投げ掛ける何気ない言葉の中には、保育者自身の考え方や物事の捉え方が反映されていることが多く、そのような普段の子どもへの言葉かけが習慣化している場合もある。そのため、日頃から子どもに対して、否定的ではなく肯定的な言葉掛けを心掛けること、子どもの気持ちを尊重した言葉掛けを行うという意識をもつことは、保育者にとって大切であると考えられる。

実践2のような応答的保育は、必ずしも保育現場において実践されているわけではない。現に筆者は保育者としての勤務経験があるが、在職当時、応答的保育に関する知識はなく、子どもの言葉や考える力を育むための十分な専門性を身に付けているとは言い難かった。筆者と同様な保育者が少なからず存在していることを考えた場合、保育者養成に限らず、現職の保育者に対しても、このような内容について学ぶ機会(研修等)を設けることが望ましいのではないだろうか。

応答的保育は、応答的保育研究グループが過去20年にわたって研究してきた子どもの教育・保育において環境からの応答性を重視する保育であり、子どもの遊びの中で、おもちゃや物の応答性をどう考え、準備するか、また保育者や母親が「ことばによる応答」でどう対応するか、さらには、心の応答によって共感的心情をどうつくりだしてい

表3 DVD『ことばを育てる語りかけ育児』視聴後の学生の気付き・感想等 (N=53 複数回答)

カテゴリー	主な記述内容	回答数	カテゴリー	主な記述内容	回答数	
子どもの目線・サインに気付く(37)	子どもが興味のある時と興味のない時の表情が結構違ってびっくりした。興味のある時は目が違う。生き生きしている。しっかり子どもの表情を見ていきたい	9	子どもの言葉を繰り返す・同じ声を出す(9)	子どもが言ったことを繰り返し言う(真似して言う)ことは望ましいことで大切なのだと思った。これから実践したい	5	
	子どもは行動、表情、目線など、細かい動きで自分の感情を表現していることがよくわかった。保育に携わる者として、そのような微妙な変化、子どものサインを見逃さないようにしていきたい	9		赤ちゃんと同じ声を出すことがコミュニケーションの第一歩。お母さんが声を出すことで、赤ちゃんがもっと声を出してみよう(話してみよう)と思える	3	
	子どものサインをできるだけ見逃さず、ジェスチャーをしたり声かけをしたりして子どもの気持ちを考えてあげないといけない	7		大人が子どもの言葉ををくり返し言うことは、そんなに意味がないのかと思っていたが、子どもが言葉を覚えたり、物を認識したりすることにとてもしんどいことだと分かった	1	
	子どもの目線の先にあるものを読み取ってあげると子どもは生き生きしていた。子どもと関わる時はやっぱり目線が大事なんだと改めて思った。どういことが子どもの目線なのかを理解できた	6		親子関係(9)	何事にも安心感が大事。お母さんという事が一番安心なんだと思った。子どもにとっての母親の大切さ、信頼関係の重要性	6
	子どもの気持ちは表情にでることが分かった	5			子どもは母親が大好きなんだと思った。何かを感じるたびに、母親に目線や指、声で伝えようとしていて可愛かった	2
	視線、顔も「言葉」なんだと気付いた	1		親と子の関係をうまく築いていくには親が子の問いかけに反応したり、して欲しいことを強制しないことが大切だと思った	1	
子どもの気持ちを代弁する(26)	まだあまり言葉を発せられない子どもの気持ちや行動を大人が口に出して代わりに言ってあげること、子どもは言葉を覚える。自分のことを見てくれている、分かってくれているという安心感を得られる	11	今後の意欲(9)	今後子どもと接する時には、ジェスチャーや指さし、子どもの目線に配慮した話し方等、DVDで見たことを心掛けた	9	
	大人が子どもの気持ち、考えていることを口に出して言ってあげることが大切だと思った	8	適切な話し方(4)	子どもに言葉を理解してもらうためにゆっくり、はっきり話す	2	
	子ども達の伝えたいと思ってもなかなか言葉に表せないことを親が何が言いたかったのか代わりに言ってあげると、子どももちゃんと伝わったんだという安心した表情になる。子どもの一番の理解者になることが信頼関係につながるのだと分かった	7		子どもに話す時には、ゆっくりはっきり心掛けて、決して焦らず、その子に合ったペースで話すようにしていきたい	2	
	大人のあり方(21)	自分が行動した後、お母さんや大人の顔を見ることで、自分の行動がよかったのかどうかを確認していることが分かった。大人の目線や言葉に、子どもは敏感に反応していた	7	その他の感想(33)	DVDはとても大事なことばかりで、今後参考にしようと思ったことがたくさんあった。初めて知ったことがいろいろあった	3
大人が子どもに物事を強制的におしつけるのではなく、子どものしたい事を優先的にすることが大切だと思った		4	悪い例をあげていたので分かりやすかった。望ましくない関わり方をしないように気を付けたい		3	
子どもが言うことを聞かないのは、子どもの問題ではなく大人の問題、大人のわがままかもしれない		3	言葉で伝えられない子どもでも大人の言葉を理解して、自分の語彙を増やしているのだと知った		3	
無理矢理、興味のないことに誘ったり、これ何?といった質問をしたり、子どもが嫌がることは言わないように注意したい		2	子どもの一つ一つの行動にはちゃんと意味があるんだと思った		3	
子どもの相手をするのは大事なので、スマホの使用方法について考えるべき		2	からだ、こころを育てないと、ことばは育たないと知った		3	
大人の何気ない行動が良くも悪くも子どもの人生に大きく影響するので、常に子どもに寄り添って関わっていきたくと思った		2	子どもが興味をもってくれた時、こちらが反応してやっ子ども記憶に残るんだと初めて知った		2	
子どもに合わせる事が大切で、大人が大人にならないといけないと気付いた。子どものような大人だと子どものことが不快になり、虐待につながってしまうのかなと思った		1	子どもは自分のことを受け入れてもらってはじめて、人の言うことを聞くことができること分かった		2	
ポジティブな言葉かけ(14)		ポジティブなことばかけをする(「お手々洗わないとおやつあげないよ」⇒「お手々を洗ったらおやつにしようね」)	13		子ども(自分)とおもちゃだけで遊んでいる時期があると初めて知った	2
		子どもを誘うときも、言い方を変えるだけで言われる方の気持ちも全く違うと思うので、一つ一つの言葉に気を付けたい	1		実際の子ども映像があったので、とても分かりやすかった	2
子どもの気持ちを汲み取る(14)		子どもはまだ言葉や気持ちの表現が上手ではないので、大人が、子どもの目線、表情、態度等を上手にくみとってあげる必要があると思った。そうすることで、子どもと気持ちが通い合う。信頼関係ができる	10		「子どもは物を渡す時に、心も一緒に渡している」が印象に残った	2
	おもちゃを渡す、という行動の中にも、自分のことを受け入れてくれるか、分かってくれるかという思いがこめられている。だからまず子どもの気持ちを受けとってあげることが大切だと思った	4	子どもはすぐ素直に行動や表情で表すのでとてもかわいい	2		
子どもと目合わせる(12)	子どもを抱っこしている時、遊んでいる時に目合わせる事が大切。目の合わせ方もいろいろあった(近づく、揺らしてみ等)	5	子どもの感情や行動を読み取ることはとても難しいと思う	2		
	子どもとしっかり目を合わせることもとても大切。目を見ることで大人と子どもの気持ちが通い合うことにもつながる	5	自閉症スペクトラムを初めて知った。勉強になった	2		
	お座りができない時期でも、近づけば目が合っていると認識できていると知った	2	一つひとつの遊びまたは動作であんなにもたくさんのアプローチがあってすごいと思った	2		

注：( )内は各カテゴリーの回答数の合計数

保育方法としての「応答」のあり方について

表4 DVD『応答的保育』視聴＋ロールプレイ実施後の学生の感想内容 (N=54 複数回答)

カテゴリー	記述内容	回答数	カテゴリー	記述内容	回答数		
今後の意欲 (43)	子どもと話す中にも様々なテクニックがあったので、実際に子どもと話す時に意識して使っていきたい	8	ロールプレイの感想 (22)	みんなの発表を聞くのは楽しかった。良かった。シナリオが面白かった	6		
	実習などでことばによる応答を意識して子どもとたくさん関わりながら、会話の技術を磨きたいと思った	6		考えることが思ったよりも難しく発表できる人はすごいと思った。いずれは身に付けなければならないと思った	4		
	子どもとこういう会話が自然とできたらすごく良い。保育士さんたちは子ども達と自然とできていて、自分もそうになりたい	5		どんなふうにも話を広げていくと良いのか分かって楽しかった	2		
	何気ない会話でも今日やったことを意識して子ども達と話すようにしてみたい	4		ロールプレイ、楽しかったけど、難しかったです	2		
	子どもと話す時、子どもの発達力になるように心がけながら話すことができるようになりたい	3		発表してみると、自分たちで考えたものがみんなに聞いてもらえてとても楽しかった。良い経験になった	2		
	子どもが答えやすいような質問ができたらいと思う。子どもが言ったことをくりかえしたり、できたことを賞賛したりして、子どもの自信や成長につながればいいなと感じた	3		子どもの気持ちや先生の気持ちになって考えることができて、とても参考になった	2		
	子どもに何か質問されたら、すぐに答えるのではなく、示唆でヒントを出して、子どもの考える力を伸ばすことができるように話したい	2		ロールプレイで少し感覚がつかめた。実習などで経験を重ねて、適切な対応ができるようにしたい	1		
	習ったからにははっきりできるようにになりたい	2		自分が保育士になった時にとても役に立つと思った	1		
	子どもは褒められると私たちが思う以上に喜んでくれていると知ったので、しっかり子どもを褒めたいと思った	2		その他	2		
	保育実習に行く時も、過程などを使いながら子どもと楽しくおしゃべりしようと思った	2		子どもが言った事でたりないところを先生が言ったり質問したりすることで、子どもは言葉の能力が見についていくのだと思った	3		
	日常的な会話の中で、保育者として子どもに対する質問や応答、反応にも気を付けなければならないと思った	2		過程は、子どもの思考を発展させるために重要で、過程を使ったことばを意識し、応答的に対応すると、子どもの思考が発展し、知的能力を育むことにつながると分かった	2		
	その他	4		子どもと話す時、色々な技術があっぴょりした。様々なテクニックを会話に取り込むことで子どもにいろんな影響があって、言葉は奥深いと思った。	2		
	応答の難しさ (43)	発問や受容と違って、過程はたくさん種類があってシナリオを考えるのが難しかった		24	気付いたこと(20)	実際に考えるとなかなか全部の技法を使うことができず大変だったが、日常生活の中では自然に会話の中に出ていくのではないか	2
		会話・質問を考えるのが難しかった		10		この会話の方法は、子どもの考えを深めたり、豊かにできると思った。先生が持っている知識を子どもにさりげなく聞かせることで、子どもの物事に対する関心や興味をもたせることができると感じた	1
明瞭化は簡単にできたが示唆を考えるのがとても難しかった		3		子どもと話す時、無意識に応答的保育をしていたと分かった。意識して会話をすれば、子どもが答えやすい質問をしてあげられるなど気づいた。保育者は難しい言葉を出さずに、年齢や発達に合わせた発問を心掛けるべきだと思った	1		
感情移入が難しかった		2		コミュニケーションを広げる手段がたくさんあることを知った	1		
明瞭化、示唆はよく会話の中で使われているが、発想の転換は少し難しかった。		1		その他	8		
過程では、明瞭化や示唆しか使えなかった		1		子どもが自分で考えて答えを出せるように、私たちがその答えを導き出せるような小さなヒントを提示してあげることが大切で、それによって子ども達の発想力や思考力が育っていくと思う	3		
質問して返ってきた答えへの返事が難しい。ただ繰り返すだけだと興味ないように感じられるので、子どもが話したいと思うような会話の流れにしていけないといけない		1		子どもと関わる時の言葉かけがどれだけ大切かが分かってきた。言葉かけ一つで子どもの知識につながったり意欲を引き出したりできて言葉がすげえなと思った	2		
自然な流れで、示唆から明瞭化へつなげるのが大変だった。子どもの考えるのを助けるアドバイスや子どもに分かり易い言葉に直す時、言葉選びに悩んだ		1		補足やリードを使うと、会話が弾むだけでなく、子どもが自然と言葉を覚えたり、子ども達の発想を豊かにすることができるので大切だと思った	2		
保育者の役割 (34)		何気ない会話でも、子どもの力を伸ばせるように、うまく子どもの話しを引き出すように、工夫しているのが分かった	6	大切だと思ったこと(11)	ただ子どもと会話するのではなく、子どもの発達や能力を高めるためにも、子どもに合った言葉かけで話をすることが大切だと思った	1	
		保育者は、いろいろな応答を自然にしているのが分かった	5		第一に子どもを認めて、褒めてあげることが大切だと思った	1	
	保育者は、会話の中で子どもの言葉を引き出すために様々な方法を使っていると知り、本当にすごいと思った	4		その他	2		
	保育士の方が普段子どもとしている会話の中にも様々な技法が使われていてすごいなと思った	3		保育者は、子どもと会話する中で様々な技術を用い、子どもの発達を促しており、すごいと思う反面、自分もそういう保育者になれるか不安に思った	2		
	先生は子どもの発した言葉から即座に明瞭化や示唆などを使って会話していくのがすごいと思った	3		示唆でヒントを与えても答えが出ないときは答えを教えてしまっているのか疑問に思った	1		
	全部すぐに先生が正解を言ってしまうのではなく、子どもに考えさせることが大事だと分かった	2		知識がないと実際に子どもと話をするのは難しいと思った	1		
	保育者と子どもの普通の会話に見えても、実は保育者は、子どもの言葉を増やそうしたり、子どもが自分で思いを伝えられるように質問の仕方を工夫したりして本当にすごいなと思った	2		先生たちは、流石に練習とかして慣れているんですか？それとも年々やって来たからできるんですか？	1		
	子どものコミュニケーションを活発にし、思考力を発展させる言葉かけが日常生活でたくさん使われていてすごい	2		賞賛すると子どもがどんな気持ちになるか考えるのも面白い	1		
	子どもが自分から話ができるように、保育者がいかにかうまく引き出すかが大事だと思った。先生の心掛けが大切だと思う	2		先生が褒めると子どもが嬉しそう顔をして可愛い	1		
	保育士の方が会話の中にことばを育てる要素をたくさん入れているということを知りました。子どもは話を聞いてもらい、応答してもらったことで、会話の中でどんどん発想を広げていけるということが分かりました。そしてそれが子どものことばの発達につながっているのだなと思いました	1					
その他	4						

注：( )内は各カテゴリーの回答数の合計数

くか等から構成されている<sup>7)</sup>。

宮原・宮原(2004)は、自分で気付かないままに、言いたい事だけを発問という形で次々に子どもに浴びせてしまう保育者の存在を指摘しており、保育者自身が、発話の録音、分析を行う中で、自身の保育の欠点を知り、意識的な実践を行った事例についても報告している。

応答的保育の実践的な出発点として、子どもに対する保育者自身の発話の録音、録画の分析を行う方法がある。子どもとの望ましい応答に関して、知識としては理解しているつもりでも、実際のやりとりを文章化してみると、「発問」ばかりで「受容」がない等の傾向が見えてくる。また、「過程」は一見難しく見えるが、その使い方や技術は決して難しいものではなく、その多くは日常的に使っているものであるため、無意識のうちに行ってきた子どもに対する言葉掛けを、「過程」の種類に照らして意識して使ってみることで、子どもの気持ちになって対応することが、ことばによる応答(発問・過程・受容を使った対応)が上達する一つの秘訣であるとされている<sup>7)</sup>。

保育現場において、応答的保育(表2-2)を実践することは、新『要領・指針』が示す方向性と以下の点で合致している。新『要領・指針』では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として具体的な10の姿を挙げている。その中の「思考力の芽生え」や「言葉による伝え合い」の力を育むにあたって、保育者の応答は重要な役割を果たすと考えられる。「思考力の芽生え」に関しては、「幼児なりに考える力を伸ばしていく」、「保育者との対話を交えながら、新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わう」ことが大切であり、「言葉による伝え合い」に関しては、「保育者の仲介や子どもと保育者との対話が大切」とされている<sup>8)</sup>。保育者が子どもとの対話において、何を重視し、どのような言葉掛けをしていくか、それによって育まれる子どもの思考力や言葉による伝え合いの力は大きく異なってくることを十分に認識しておく必要がある。

## 5. まとめ

新『要領・指針』に明記されている「応答的な触れ合いや言葉掛け」、「応答的な関わり」、「発声や喃語等への応答」の具体的な方法について、学生達は、DVD視聴により十分に理解できたことが窺えた。映像には、親(大人・保育者)としてどのように子どもに向き合い、どのような言葉掛けをすればよいかロールモデルとして示されているため、学生に限らず、乳幼児期の子どもをもつ保護者や3歳未満児を担任する保育者にとっても多くの示唆が得られる。

「応答的保育」は、「自ら学ぶ心」、「自ら行動する心」としての内発的動機づけを育成する保育であり、その実践により、子どもは言葉をはじめとする知的能力、物事に対

する興味、自発性、意欲、他者への信頼性が培われていく<sup>7)</sup>。そのため、学生に限らず、子どもの保育に携わる全ての大人(保育者や保護者)が、今回のようなDVD視聴を通じた研修という形で、保育における「応答」の重要性を十分に認識し、保育方法としての適切な応答技法を理解して実践していくことは大切であると考えられる。

## 参考文献

- 1) 文部科学省：幼稚園教育要領。フレーベル館。2017.
- 2) 厚生労働省：保育所保育指針。フレーベル館。2017.
- 3) 内閣府，文部科学省，厚生労働省：幼保連携型認定こども園教育・保育要領。フレーベル館。2017.
- 4) 落合信寿：講義「青年心理学」における映像教材の評価。白鷗大学教育学部論集，10(1)，191-203，2016.
- 5) 佐藤久恵：1歳前後の子どもとの関わりについての考察—授業時に使用した動画教材への学生の反応を中心に—。白鷗大学教育学部論集，10(2)，555-573，2016.
- 6) 中川信子：ことばを育てる語りかけ育児。アローウィン。2011.
- 7) 宮原和子，宮原英種：応答的保育 第2巻 実際編。メディアパーク。2004.
- 8) 無藤隆，汐見稔幸，砂上史子：ここがポイント！3法令ガイドブック。フレーベル館。2017